

米

国では「クリーンテック」と呼ばれる環境ビジネスが急速に台頭し始めている。環境対策「後進国」と揶揄される米国だが、ビジネスとなると話は別。すでに、ベンチャーキャピタル（VC）がこぞって同分野への投資をしている一方で、クリーンテックベンチャーが続々と誕生している。

クリーンテックとは、太陽光発電や風力、バイオ燃料など代替エネルギーや燃料電池、電気自動車、浄水といった地球環境保護分野をひくくめたる総称。2000年代初頭から



一面が太陽電池

サンフランシスコ郊外のマウンテンビューにあるグーグル本社は07年6月から「発電所」になった。シャープ製の1枚208ワットの太陽電池パネル9212枚で覆われており合計1.6メガワットの発電容量がある

早耳のVCなどが注目していたが、06年になって急速に投資額が増えた（左：棒グラフ参照）。シリコンバレーの名門VCも我先にと出資を急ぐ。中でも積極的なのが、クライナー・パークンス・コーフィールド&バイヤーズ（KPCB）だ。06年に6億ドルの新規ファンドの

シリコンバレーは今やソーラーバレーへ

「エネルギー」R&Dベンチャーに投資マネーが殺到

うち1億ドルを同分野へ充当、今年5月にはついに5億ドルの専門ファンドまで立ち上げた。米報道によると、これまでに26社に対して総額2.7億ドルを出資、22人いるパートナーのうち半数以上が同分野への投資にかかわっているという。

KPCBを率いるジョン・ドーア氏はグーグルやアマゾン・コムなどに投資してきた最有力投資家の一人。そのドーア氏が最近ではすっかり環境分野の投資家として知られるようになり、アル・ゴア元米国副大統領が立ち上げた投資会社の諮問委員にも就くほどだ。

藻からバイオ燃料？ 開発段階で250万ドル

サン・マイクロシステムズの創業者でKPCB出身のビノッド・コーストラ氏も自ら設立したコーストラ・ベンチャーズを通じて関連企業へ続々と出資。米メディアに積極的に登場

し、クリーンテック分野の有望性について語っている。

微細藻類を利用したバイオ燃料のオーロラ・バイオフュエルズはVCからの出資を受けたベンチャーのひとつ。カリフォルニア大学のビジネスコンテストで優勝して06年に設立した同社は、これまでに3社から総額250万ドルの出資を受けた。同社の技術はまだ研究開発段階で商業化のメドはたっていない。それでも、「VCにとってクリーンテックは「次の大きなビジネス」という期待感が大きい」（共同創設者のギド・ラタエリ氏）。

一方で、太陽光発電を中心に、上場する企業も出てきた。06年12月に上場したファースト・ソーラーの時価総額は今や2兆円超。「今のVCの投資額を考えると、今後も新規上場（IPO）が増えることは間違いない」とクリーン・エッジ代表で「クリーンテック革命」著者のロ

ン・パーニック氏は期待を膨らませる。

クリーンテックに注目するのはV Cだけではない。創業者のラリー・ページ氏が個人で電気スポーツカー「ロードスター」を手掛けるテストラ・モーターズに出資するなど、独特なエコIT企業であるグーグルは、昨年11月末に「RECO」と名付けた環境関連プロジェクトを発足させ、「08年度には何千、何百万の資金を代替エネルギー分野の研究開発に振り向ける」と発表した。

データセンターに膨大な電力を利用するグーグルにとって、電力削減は重要な経営課題でもある。すでに、太陽光発電のeソーラーなど社に出資。さらに数年内には、サンフランシスコ市全土の使用電力に相当する1ギガワットを代替エネルギーによって発電するという壮大な目標まで掲げている。

ナノテックなど技術応用 支援策も成長のカギに

シリコンバレーを中心にクリーンテック分野が盛り上がりつつある背景を老舗VC、USベンチャー・パートナーズのアラテイ・フラブ・ヘイカー氏は「ガソリン価格の高騰などに伴って消費者の関心が高まったことで新技術への市場ニーズが膨らんだことが大きい」と分析する。

確かに太陽光発電などは半導体製造技術の応用。関連企業の多いシリコンバレーにはピッタリだ。また、ナノテックなど技術があっても応用先がなく、持て余していたところへ環境保護という応用先が登場、「新興企業が続々と誕生するのに必要なインフラが整っていた」（シリコンバレーにあるVC、ノベンティのパートナー・石井正純氏）。

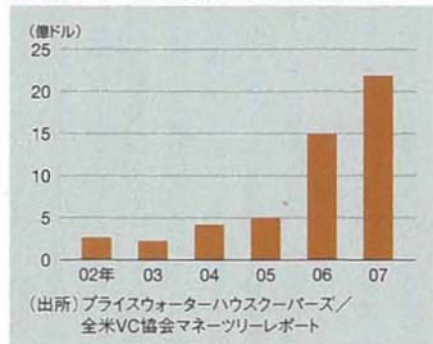
ノベンティでも06年に専用ファンドを組成し、出資先を募ったところ80社以上の案件が殺到。「毎日のように案件が持ち込まれるほど」（石井氏）、関連企業は増えている。

政府による環境保護対策の加速も発展を後押ししている。米国政府が保護対策に消極的だが、州政府は関連プロジェクトへの出資などさまざまな政策を打ち出している。中でも先行しているのが、シリコンバレー

のあるカリフォルニア州だ。

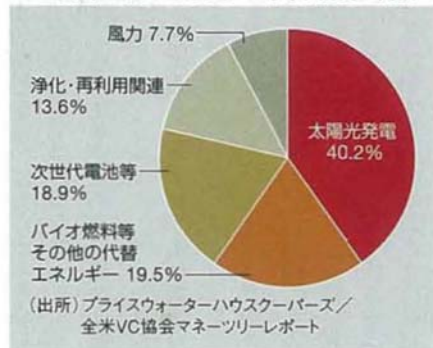
06年にはシユワルツエネッガー知事の号令の下「100万軒のソーラーーフス計画」と呼ぶ太陽光発電普及促進策を法制化。17年までに総額330億ドルを費やして、個人や法人の太陽光発電設備設置を支援、3ギガワットの発電を目指している。このほかに20年までに温室効果ガス25%削減を目標に掲げているほか、保護技術やプロジェクトへの資金援助など、関連政策は山とある。「従来のIT分野では政府の動向を気にすることはなかったが、クリーンテックでは政府の支援策が

06年からVC投資が急激に拡大



太陽光発電への投資が活発

—07年のVCによるクリーンテック投資の内訳—



続々と生まれるクリーンテック企業

社名	分野	出資元
ファースト・ソーラー	太陽光発電	上場、時価総額約2.3兆円
ミアソーレ	太陽光発電	KPCB等
アースラー	太陽光発電	KPCB、コースラ・ベンチャーズ等
オーロラ・バイオ・フュエルズ	バイオ燃料	ノベンティ、オークインベストメント・パートナー等
アミリス・バイオテクノロジーズ	バイオ燃料	KPCB、コースラ・ベンチャーズ等
EEストア	次世代燃料電池	KPCB等
ブルーム・エネルギー	酸化燃料電池	KPCB
テスラ・モーターズ	電気スポーツカー	グーグル創業者、ドレーパー・フィッシャー・ジャーベツソン等

発展のカギを握る」(フラブ・ヘイカー氏)だけに、VCの間でもカリフォルニア州の積極策を賞賛する声が多い。

こうした要素がうまく絡み合っただけでシリコンバレーは徐々に環境ビジネスのメッカへと変貌を遂げている。しかし、研究開発段階のベンチャー企業がほとんどであり、クリーンテック分野がITのように産業として成長するにはかなりの時間がかかることは間違いない。「いつビジネスになるのか」という議論が尽きないが、最低5年は待つ必要がある」(フラブ・ヘイカー氏)。ノベンティの石井氏は「IPOよりはむしろ、大企業による買収が主なエクジットになるのではないかと見る」。

大きな花が咲くのか。VCならずとも、関心は高まるばかりだ。